

【事後評価】

N o . 2 3 県道711号（小田原松田）〔足柄紫水大橋〕橋りょう整備事業

2. 事業の経緯や必要性

1) 経緯

- ・昭和40年度：都市計画決定（当初）
- ・平成16年度：都市計画変更（最終）、事業着手
- ・平成18年度：用地取得開始、工事着手
- ・平成25年度：供用開始

2) 必要性

- ア) 評価対象区間周辺地域で新市街地整備が進む中、これを支える東西方向の幹線道路を整備する必要があった。
- イ) 評価対象区間周辺地域は、酒匂川により分断されている地域間の交流・連携を支える路線の整備が必要であった。
- ウ) 評価対象区間周辺地域で酒匂川を渡河する橋梁は2橋しかなく、上流側の足柄大橋に交通が集中していたため、交通混雑を緩和する必要があった。

3. 事業の目的

- 1) 新市街地整備の基盤となる東西交通軸の形成
- 2) 地域分断の解消と交通混雑の緩和

4. 事業の内容

- 1) 起 終 点：大井町金手～開成町吉田島
- 2) 事業延長：約0.98km
- 3) 幅 員：15.5m
- 4) 交 通 量：計画交通量：12,700台/日（平成42年推計）
現況交通量：13,882台/日*（平成30年度調査結果）
*12時間交通量に昼夜率（H27全国道路・街路交通情勢調査1.29）を掛けて算出
- 5) 道路規格：第4種第1級
- 6) 設計速度：50km/h
- 7) 車 線 数：2車線
- 8) 歩道形態：両側歩道
- 9) 主な工種：橋梁工（3橋）、道路改良工

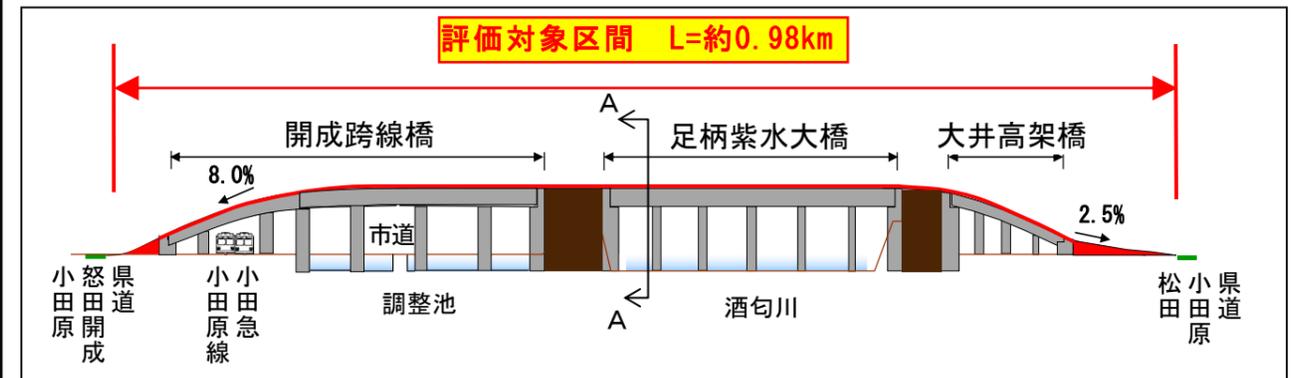
5. 事業実施にあたって配慮した項目

- ・評価対象区間は、開成駅周辺地区土地区画整理事業の事業区域が重なるが、計画段階から土地区画整理事業施行者と調整し、本路線の高架橋の下を開発に伴う調整池として有効活用した。

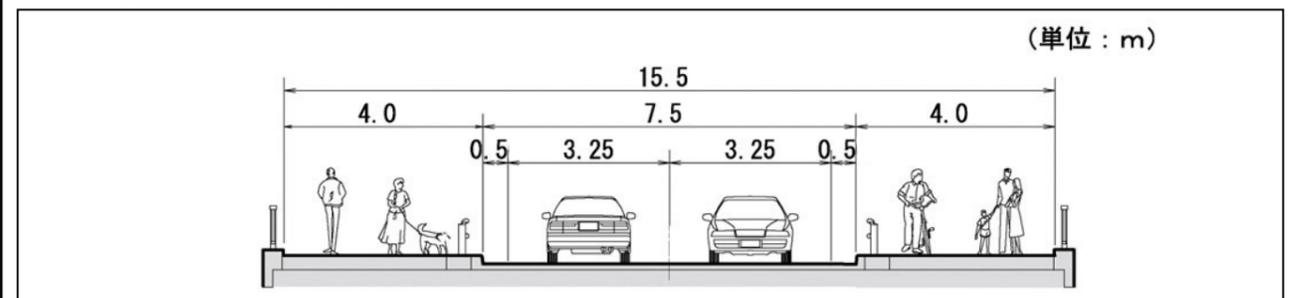
■ 平面図



■ 側面図



■ 横断図（A-A断面）



■ 状況写真



開成町側から大井町方向を望む



開成跨線橋の高架下(調整池)

供用後の足柄紫水大橋

【事後評価】

No. 23 県道711号（小田原松田）〔足柄紫水大橋〕橋りょう整備事業

◆ チェックリスト

費用対効果等	事業期間	事業化年度	H16年度	用地着手	H18年度	供用年度	(当初)H26年度	事業期間変動率
		都市計画決定	H16年度	工事着手	H18年度		(実績)H25年度	
事業費	再評価時	(名目値)	95億円	実績	(名目値)	75億円	事業費変動率(実質値)	
		(実質値)	93億円		(実質値)	73億円		0.8倍
事業期間・事業費変更理由 —								
(再評価時)費用対効果分析結果	B/C	総費用	97億円	総便益	125億円	基準年		
	1.3	内訳 事業費	95億円	内訳 走行時間短縮便益	98億円	H22年		
		維持管理費	2億円	走行経費減少便益	21億円			
		経済的内部収益率(EIRR) 5.3%						
(事後評価時)費用対効果分析結果	B/C	総費用	109億円	総便益	145億円	基準年		
	1.3	内訳 事業費	106億円	内訳 走行時間短縮便益	126億円	H30年		
		維持管理費	2億円	走行経費減少便益	17億円			
		経済的内部収益率(EIRR) 5.5%						
事業遅延による費用・便益の変化と損失額		費用増加額	—	便益減少額	—	損失額		
						—		

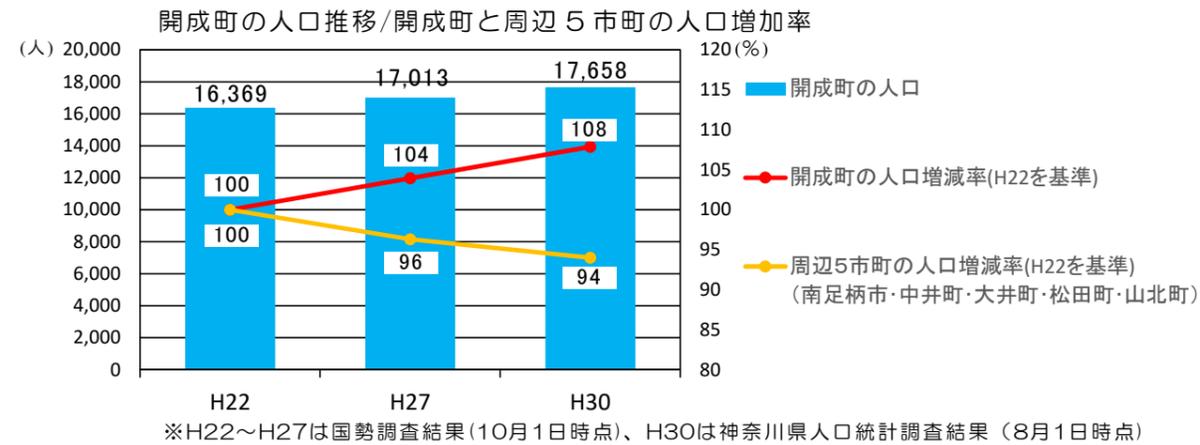
■ 上記便益に算定されていない効果

ア) 安全・安心・利便性

- ・評価対象区間の整備によって、約1km上流の「足柄大橋」と約2km下流にある「報徳橋」の代替路線が確保された。

イ) 地域の活性化

- ・当該地域の東西交通軸が形成されるとともに、東名高速道路大井松田ICへの円滑なアクセスが確保されたことで、新市街地整備に伴う人口増加に寄与した。



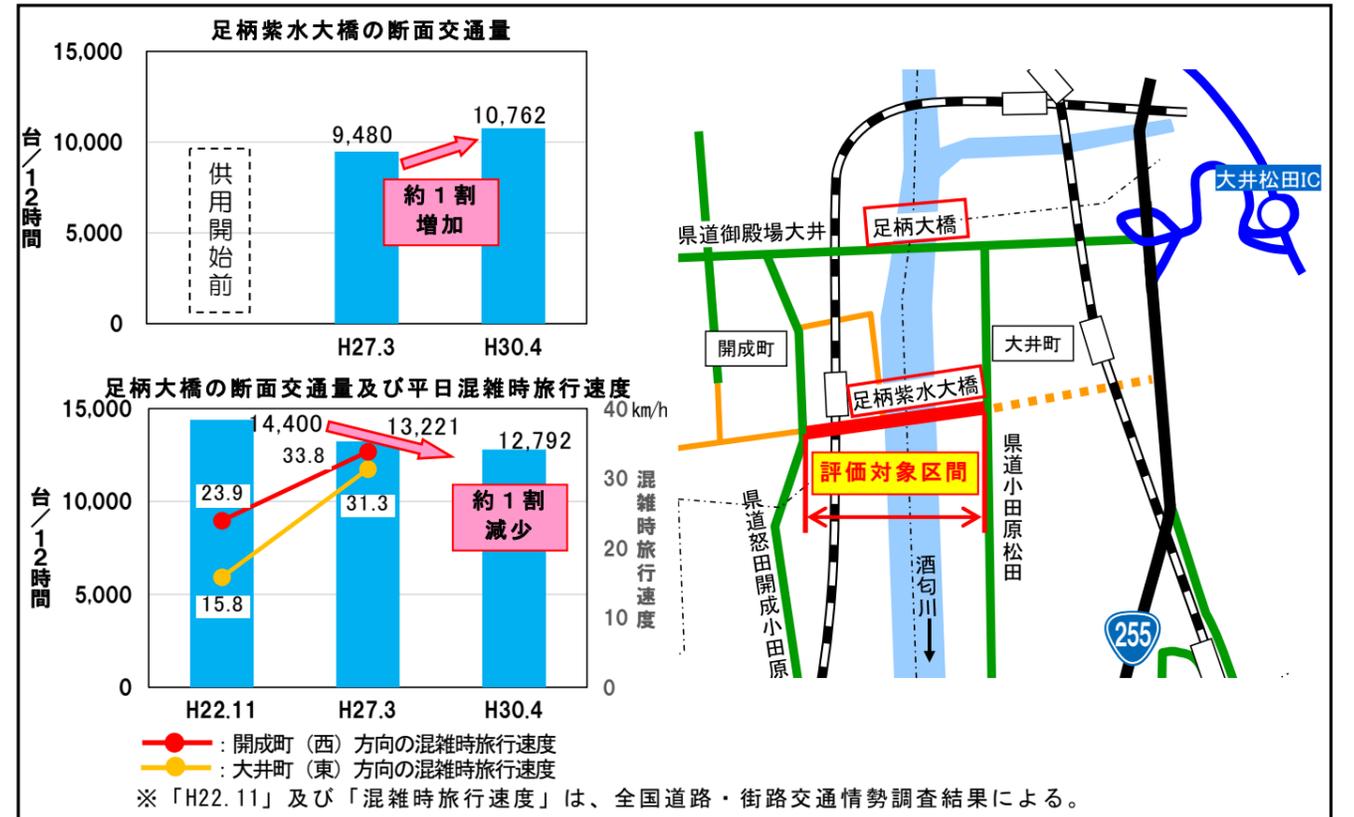
① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

要因の変化はありません。
(なお、基準年を更新したため、再評価時と事後評価時で、総費用・総便益が異なります。)

② 事業効果の発現状況

交通量変化

- ・足柄紫水大橋の交通量は増加傾向にあり、東西交通軸としての効果を発現している。
- ・評価対象区間の整備により、上流側の足柄大橋では交通量が減少し、慢性的な交通混雑が緩和した。



③ 関係する地方公共団体等の意見

- 大井町：足柄紫水大橋が整備されたことに伴い、上流の足柄大橋の渋滞が緩和されたことで、県西地域の東西連携機能がより強化された。
- 開成町：東名高速道路大井松田ICへの円滑なアクセスが確保され、周辺の新市街地の魅力向上に寄与している。
- 小田原市消防本部：大井町と開成町間において、酒匂川を渡るルートが増え、現場によっては到着時間が約10分短縮されるなど、消防力の強化に寄与している。

○ 対応方針(案)

本事業は、新市街地整備の基盤となる東西交通軸を形成するとともに、酒匂川による地域分断を解消するなど、事業効果は十分発現していると判断できるため、現時点では、特に改善措置の必要はない。こうしたことから、事後評価を再度行う必要性は認められない。

○ 今後の取組み

本路線の延伸や他路線の整備など、交通流動に変化があった場合は、その事象を検証の上、必要な対策を講じることとする。

○ 他の事業のあり方や、評価手法の見直しに活かせる事項

本事業は、事業区域が重なる土地区画整理事業の計画段階から調整し、高架橋の下を調整池として有効活用した。

今後、他事業においても、連携できる事業がある場合は、早い段階から関係機関と調整していく必要がある。